

親・教師による賞賛・受容が 社会的自尊感情・基本的自尊感情に与える影響

藤 岡 あゆみ

問題と目的 近年、自尊感情の概念的な見直しが試みられている。近藤（2007）は自尊感情を他者との比較や競争によって高められる社会的自尊感情と自分の良いところも悪いところもあるがままに受け入れる基本的自尊感情に概念的に区別した。猪股・茅野（2021）は、基本的自尊感情は、脆く崩れやすい不安定な側面がある社会的自尊感情を支える土台になるとしている。子どもの自尊感情を向上させる方法として、褒めることが有効とされているが、折笠・庄司（2017）は、賞賛は親や教師などの他者の価値基準による評価であるため、社会的自尊感情のみを高め、基本的自尊感情を高めるものではないと提言している。一方、基本的自尊感情を高める方法として、教育者による受容が挙げられる。概念的定義から、基本的自尊感情は自己の存在への受容の感情と行うことができると考えられる。これらを踏まえて、本研究では、親・教師による賞賛・受容が社会的自尊感情・基本的自尊感情に与える影響について調査する。

方 法 大学生、大学院生147名を調査対象とした。男性57名、女性90名、平均年齢は21.37歳であった。質問紙調査によって、性別、年齢、親・教師による賞賛の経験、親・教師による被受容体験、社会的・基本的自尊感情を調査した。賞賛の経験、被受容体験は、小学生時代を想起して回答するよう指示した。

結果と考察 社会的・基本的自尊感情尺度の偏位尺度項目の得点が14点以下の2名を除外した。よって、分析対象は145名（男性56名、女性89名）となった。男女差の検討を行ったところ、社会的自尊感情と基本的自尊感情について、女性よりも男性の方が有意に高い得点を示した。相関分析、重回帰分析にて検討したところ、社会的自尊感情と教師による賞賛の経験、基本的自尊感情と親による賞賛の経験及び被受容体験・教師による被受容体験の間で有意な正の相関を示した。特に、親による被受容体験は基本的自尊感情に正の影響を与えていることも示された。次に男女別に検討したところ、男性は、社会的自尊感情と教師による被受容体験の間で有意な正の相関を示した。女性は、社会的自尊感情と教師による賞賛の経験、基本的自尊感情と親による賞賛の経験・被受容体験の間で有意な正の相関を示した。特に、教師による賞賛の経験は社会的自尊感情に、親による被受容体験は基本的自尊感情に影響を与えていることも示された。これらの結果から、親の養育においては、賞賛・受容とも基本的自尊感情と関連しており、特に受容の影響が強いことが示唆された。最も身近で重要な他者である親は、賞賛・受容の手段に関わらず、基本的自尊感情への影響が強いことが示された。教師による教育においては、概ね受容は基本的自尊感情に関与し、賞賛は社会的自尊感情に関与することが示された。特に、女性に対しては、賞賛の持つ社会的自尊感情への関与が強く見られた。また、男性に対しては、受容は社会的自尊感情に関与することも示された。男性においては、言葉かけによる賞賛よりも、存在を受容することが重要であることが考えられた。